

モスクワおよび全ルーシの総主教キリールから降誕祭に際しての挨拶

親愛なる兄弟なる主教品、
誠実なる司祭・輔祭、敬虔なる修道士・修道女、愛する兄弟姉妹！

今日は降誕する幼子、救世主イイスス・ハリストスと至潔なる生神女マリヤを崇め誉める人々で全世界の聖堂が賑わっています。

ハリストスの降誕は人類の歴史の中で中核となる出来事です。人間は常に神を探し求めています、神の独生の子の藉身において、主は初めて自ら人々の前に現れました。その神現は真実で完全なものでした。神の子及び人間の子の降誕を通じて世界は神が至と高き全能者であるというだけでなく、愛であることを知りました。神は報いを与える主であるだけでなく、憐みです。神は裁き主であるだけでなく、生命や喜びの源です。主は世界を治める単一の神ではなく、愛の規則によって生きる至聖三者です。この全ての真実はイイスス・ハリストスの降誕の奇跡によって私たちに伝えられました。

私たちが祝う主の降誕は、人類の歴史の流れを根本的に変えた出来事でした。神は人間の命の深みに入り、私たちの一人となり、ゴルゴファで人類の罪・弱さ・病の重荷を背負い、人間が支えきれないそれら多くの負い目から解放してくださいました。その時から神は至高き天におられる存在ではなく、常に私たちの内に在り、私たちと共にいてくださるのです。聖体礼儀の時に「ハリストスは我らの内に在り」の挨拶に対して、「まことに在り、また永く在らんとす」と答えます。この言葉は藉身した神、救世主イイスス・ハリストスはその信徒と共におられることの証しです。ハリストスの尊体や尊血を主日にいつもいただき、主の戒めのために努力することで救世主と現実的に交わり、罪の許しを得ることができます。

ハリストスに寄り頼む信徒は、この世の中の生活において主が表明してくださった神の国の証人になるという使命があります。ハリストスを見本として、主とおなじように振る舞うという大きな名誉が私たち全員に与えられています。悪や罪との戦いの中で私たちを強くしてくださるハリストスの力を信じ、つねに立ち向かうこと、いつでも義なる行いをする、罪深い本質から義に満ちた新たな人間に変わるために日々努力すること、これ全てはハリストス教の光栄なる使命です。

ハリストス救世主は人間の神に対する思いを測る不動で絶対的な指標を定めました。これは私たちの隣人に対する行ないです。他人の弱みを背負い、痛みと苦しみを分け合い、不幸や貧しい人たちに思いやりの心をもって、ハリストスの掟を実行しましょう(ガラティヤ 6:2)。こうすれば私たちは人間の病や弱みを背負った救世主と同じようになることができます(イサイヤ 53:4)。

幼子・神が生まれた芻槽（飼い葉桶）に思いを向ける日である喜びに満ちて光輝くハリストスの降誕祭に際して、隣人に対する思いを忘れてはなりません。今日、聖堂で私たちに与えられる偉大な恩寵はハリストスだけではなく、まだ教会の域に入っていない、この世の欲に従って生活する人々にも注がれます(コロサイ 2:8)。私たちが未信者たちを迎えに行かなければ、主の福音は彼らに届きません。私たちの霊を満たす喜びを分かち合うため心を開かなければ、その喜びを受け入れる準備ができていない人達がそれを味わえないのです。

神の子の藉身によって人間の本質がとてつもない高さに上げられました。私たちは誰でも「神の像と肖に従って(神の形に、神にかたどって)」作られただけでなく、ハリストスを通じて神の家族に迎え入れられています。私たちは「異民、或は他邦の人たらず、すなわち諸聖徒の同邦の人、神の家属(家族)なり」(エフェス 2:19)。信徒と神との親密な関係が主の祈りの言葉「天にいます我等の父」に現れています。私たちは創り主・神を「父」という親しい名前を読んでいます。

人間の命は測りきれない価値のあるものです。なぜなら、その命が神の独生の子の藉身、生命、死、そして復活で贖われたからです。この真実は私たちにあらゆる隣人を思いやるよう伝えています。モスクワの光照者フィラレート(ドロズドフ)は「愛は生きる行いであり、隣人の善なるために努力することである」という言葉を残しています。ハリストスの降誕を祝う喜ばしい日に際して、施しや義に満ちた愛を心にもちましょう。聖使徒パウルの言葉を思い出してください。「兄弟の愛を以て相愛し、禮義を以て相譲れ。勤に怠る勿れ、神[°]をもやせ、主に事へよ」(ロマ 12:10-11)。「施を為し共愛を行うを忘る勿れ」(エウレイ 13:16)。

救世主イイスス・ハリストスの降誕祭を心からお祝いを申し上げます。仁愛和平の神が(コリント後書 13:11)私たちに平安と安寧を賜うことをお祈り申し上げます。

モスクワ及び全ルーシの総主教

キリール